

## 第三回 食の新潟国際賞 受賞者決定！

# 本賞に 坪井達史 氏（日本）

## アフリカにおける稲作技術の開発と普及を実践

### 世界各国から多数の推薦

増大する飢餓人口や食に帰因する健康不安など、世界の食の状況は深刻です。

食の分野に特化した国際顕彰制度は、1986年に創設された世界食糧賞（米国）があります。食料生産や食品産業が盛んな新潟も、食をテーマに世界貢献しようと、食の新潟国際賞を設け、その実現に取り組んでいます。

世界各国から食分野で活躍する個人・団体の推薦を受け、「本賞」「佐野藤三郎特別賞」「21世紀希望賞」の3部門で受賞者を選定しました。

### 受賞者を決定 —6月9日理事会—

選考委員会は唐木英明・(公財)食の安全・安心財団理事長を委員長に各界の有識者11名で編成されました。「世界にとって普遍的な価値を持つこと」「人々の暮らしを救う業績であること」などを原則に選考を進め、5月21日に東京で開かれた選考会議で最終候補を決め、理事会に答申しました。6月9日、新潟市で開催された理事会で、第3回受賞者3名を決定しました。

## 本賞 = 坪井 達史 氏

ウガンダ国立作物資源調査研究所  
JICA稲作上級技術アドバイザー(日本)



坪井氏は30年間に渡って、アジア・中東・アフリカの開発途上国において稲作技術の指導に携わってきた。

前半はアジア各国において水稲を中心に稲作技術を指導した。その後コートジボワールを皮切りにアフリカの活動を行う中で、90年代半ばに開発された陸稲（ネリカ）のポテンシャルに注目し、04年以降、ウガンダにおいてネリカ振興のための試験研究や普及に取り組んでいる。

氏の技術指導を通じて恩恵を受けたウガンダの農業関係者や農民は1万4千人以上に上る。同氏は、アフリカにおける稲作の技術開発と普及を実践する世界的な第一人者であり、日本を含む国際社会がアフリカにおいて稲作振興に取り組むにあたり、今後も中核的な役割を果たしていくことが期待される。1949年12月11日生まれ。（64歳）

# 第三回 食の新潟国際賞 受賞者決定！

## 本賞受賞者コメント

食の新潟国際賞の受賞を知らされ驚き、そして私を推薦してくれたJICAと選考委員の先生方に感謝しています。

この受賞はアフリカの稲作農家、普及員、研究者、そしてアフリカ稲作支援を現場で行っているJICA専門家、協力隊のネリカ隊員、JICAスタッフの皆様の活動とその成果を評価していただいたものと認識しています。



アフリカの稲作はまだ始まったばかりで農家も経験が浅く生産性も低いことから、これからも現場で共に汗を流す技術協力が必要と考えています、そこで今回の受賞は私の現場での活動を評価していただいたことにより、農家と共に汗を流している普及員、協力隊員、専門家の励みになり、また現場での活動の大切さを再認識してもらえたと思います。

私は10月末で30年に渡る稲作専門家に終止符を打ちますが、最後にこのような立派な賞をいただくことになり最高の喜びです。ありがとうございました。

これからも老体にむち打ちアフリカの稲作支援に微力ながらお手伝いする所存です。私の専門家としての活動を生活・健康面から支えてくれた妻と娘達に感謝しています。

ウガンダにて

ウガンダ・コメ振興プロジェクト  
稲作技術アドバイザー 坪井達史

### 「第3回食の新潟国際賞」受賞候補者の選考について



選考委員長 唐木英明（公益財団法人 食の安全・安心財団理事長）

食の新潟国際賞受賞候補者の推薦には多数の応募があり、三つのポイントで選考させていただきました。

選考委員が、特に注意をしたのは「量」「質」「配分」という三つの問題の解決に力を注ぎ成果を上げられた方を重点に選考をいたしました。食における量の問題、質の問題、配分の問題を解決するということは、量の問題では世界の人々の健康の栄養状況が改善されるということであり、質の問題では付加価値を付け、経済的に地域が豊かになることであり、配分を解決するということは、格差を解消することにより争いをなくし世界の平和をもたらすという大きな目的につながるからです。

本賞の坪井さんについては米の生産を上げるということで、特にアフリカ地域での食糧の不足と経済的な困難さを解決し非常に大きな功績を上げた方です。

佐野藤三郎特別賞のゴウダさんについては非常に国際的な研究をされており、東南アジア地域を中心として豆という作物の改良を通じて地域の食糧問題の解決だけでなく、経済的な面で非常に大きな功績を上げられたことで選出しました。

21世紀希望賞はこれから業績を上げて、食糧の問題を解決できる可能性があるという夢のある研究をしている中井さんを選びました。中井さんが研究するオリゴ糖は人間の健康を守る上で将来非常に有効で有用な素材になるだろうと思われています。中井さんは新しいオリゴ糖作り出す、あるいはオリゴ糖を上手く合成し沢山作って応用ができるという研究で業績を上げつつあり、将来に夢があるという研究をしているということで選出されました。

優秀な候補者をご推薦いただいた世界の多くの関係者の皆様、そしてご多忙の中をご審査いただいた選考委員の皆様にご心から感謝申し上げます。

（6月27日の「第3回食の新潟国際賞受賞者発表記者会見」のコメントから抜粋）

## 第三回 食の新潟国際賞 受賞者決定！

### 佐野藤三郎特別賞 = C.L.ラクシュミパティ・ゴウダ氏

国際半乾燥熱帯作物研究所(ICRISAT)(インド)



ゴウダ博士は過去37年間に亘って、高収量と抗立ち枯れ病や、抗オオバコ対策に重点を置きながら、ヒヨコマメの改良開発研究に携わってきた。

彼と彼のチームは、進んだ品種系列を開発し、これを世界中の30カ国供給した。

この品種素材を基礎にして、10カ国の発展途上国の科学者たちが、68種類の高収穫品種を開発する事ができた。

これらの品種の多くは農家の収入向上や国家のGDPに対して、目覚ましい貢献となった。1949年6月インド生まれ。(65歳)

### 受賞者コメント

私は、食の新潟国際賞財団から「佐野藤三郎特別賞」を授与された事を、誠に幸せに思っております。

私はこの賞を、南アジアの乾燥地帯やアフリカの亜サハラ地帯の小規模農家の方々に捧げたいと、心から感じております。

また、私は、40年間に渡って、自分たちの生活を確立するために大変な挑戦を続けている貧しい人々を助ける仕事としての科学者、研究リーダーの職に就く機会を与えてくれた、「国際半乾燥熱帯作物研究所(ICRISAT)」の理事会並びに執行部に感謝致します。



ICRISATにおける経験は、私に、自分の家族を養うためのより多い収穫或いは換金して現金を得るための余剰収穫を期待する小規模農民に対して、改善された技術(即ち、品種の改善、作物栽培法)を提供するのだという、全体の図式を教えてくださいました。

私を、「佐野藤三郎特別賞」に値すると考えてくれた食の新潟国際賞財団に対して、深く感謝致します。

## 第三回 食の新潟国際賞 受賞者決定！

### 21世紀希望賞 = 中井 博之氏

新潟大学農学部自然科学研究科 助教(日本)



自然界には多種多様なオリゴ糖が存在しており、そのそれぞれが独自の機能性・利便性を有しているが、多様性に富むオリゴ糖のそれぞれの単一で低コスト大量調製が困難なため、現在産業的に利用可能なオリゴ糖はごくわずかである。

中井博之博士は、ホスホリラーゼという自然界に存在する安全な生体触媒である糖質関連酵素を活用して、ヒトの健康保持増進に有益な機能性オリゴ糖のバリエーションを大幅に拡大し(200種類以上)さらにデンプンやセルロースなどの植物性バイオマスまたカニやエビなどの甲殻類の外骨格を形成するキチンなどの海洋性バイオマスを、高付加価値な機能性オリゴ糖に高収率変換する革新的な低コスト汎用製造技術の開発に成功した。1977年10月生まれ。(36歳)

### 受賞者コメント

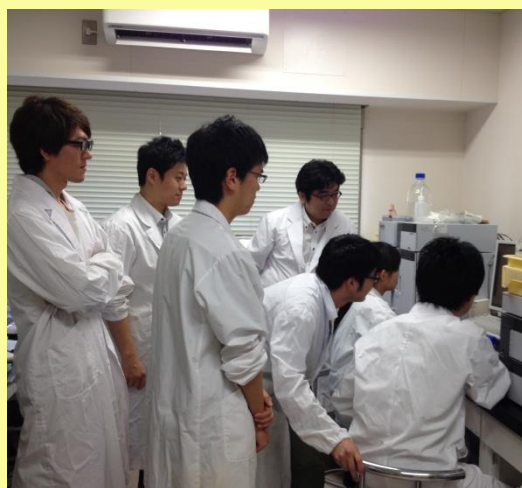
この度は、第三回食の新潟国際賞をいただき、大変光栄に存じます。古泉理事長をはじめ、唐木選考委員長また関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。また、これまでご指導を賜りました先生方、共同研究者の皆様方にこの場を借りて厚く感謝申し上げます。

近年、国際的な高齢化に伴い、世界的に健康管理の重要性が再認識され、食品機能として栄養面や嗜好面だけでなく、生体調節機能が注目されております。当該機能をもつ食品のうち代表的なものとして、機能性オリゴ糖が挙げられます。

現在、小生は自然界に存在する安全な生体触媒である糖質関連酵素群を活用して、ヒトの健康保持増進に有益な生理活性を有する機能性オリゴ糖のバリエーションを拡大し、さらに植物性また海洋性バイオマスを高付加価値な機能性オリゴ糖に高収率変換する汎用的製造技術の開発に取り組んでおります。

本研究活動により得られる成果は、自然界の生体内での含有量の低さから、これまで大量調製が極めて困難であった希少オリゴ糖やこれまで発見されてこなかった新規オリゴ糖を含む、ヒトの健康保持増進に有益な機能性オリゴ糖を健康食品素材や医薬品素材として社会に供給することを可能にし、植物性及び海洋性バイオマスの利用による環境負荷の低減、新たな食品・医療産業の創出・活性化、人類の健康増進に大きく寄与するものと期待されます。

今回の受賞を契機とし、今後も研究に励んでいく所存です。この度は、誠にありがとうございました。



# ● 食の新潟国際賞 選考委員会

(敬称略)

役職	氏名	所属・職名
選考委員長	唐木 英明	(公財)食の安心・安全財団理事長
委員	赤阪 清隆	(公財)フォーリンプレスセンター理事長
委員	石井 勇人	共同通信社 編集委員 日本農政ジャーナリストの会副会長
委員	今野 正義	日本食糧新聞社 代表取締役会長CEO
委員	坂本 元子	和洋女子大学名誉教授・評議員
委員	柴田 明夫	(株)資源・食料問題研究所所長
委員	生源寺眞一	名古屋大学大学院生命農学研究科教授
委員	シンディ・ハイドラ	オランダ王国大使館 農務参事官
委員	引野 肇	日本科学技術ジャーナリスト会議事務局長 中日新聞社 東京本社編集委員
委員	平山 征夫	新潟国際情報大学学長
委員	山野井昭雄	味の素(株)顧問

# ● 表彰式スケジュール

(写真は第2回)

□日程 平成26年 10月29日 (木)

□会場 朱鷺メッセ国際会議場

ホテル日航新潟

(新潟市中央区万代島5-1)



□基本プログラム

- (1) 表彰式 (10月29日)
- (2) 受賞記念講演 (10月29日午後)
- (3) 祝賀パーティー (10月29日)



# 食の新潟国際賞財団

新潟は、食料生産や食品産業の盛んな地域です。水と土との壮絶な戦いによって全国一の美田を形成した多くの先人の志を誇りとし、「食の新潟」を築き上げた、先人の献身と情熱を次世代に継承するために、世界に貢献する事業として「食の新潟国際賞」を創設しました。

国際賞は、世界の重要な共通課題となっている食の量的質的課題に対し先進的に挑戦し、めざましい成果を挙げている人（業績）を表彰しています。

「公益財団法人食の新潟国際賞財団」は新潟県内の産業界、農業界、学术界、行政の有志により、2009年3月に財団を設立し、国際賞顕彰事業のほか地域経済の活性化事業、産学官民連携推進事業など幅広く活動を広げております。

## 理事

(敬称略)

	氏名	所属・役職
理事長	古泉 肇	亀田商工会議所顧問
副理事長	篠田 昭	新潟市長
副理事長	池田 弘	新潟経済同友会筆頭代表幹事
副理事長	田中 通泰	亀田製菓(株)代表取締役社長
副理事長	吉田 康	(株)ブルボン代表取締役社長
常務理事	与田 一憲	(公財)食の新潟国際賞財団 ディレクター
理事	石黒 正路	新潟薬科大学教授
理事	今井 長司	新潟県農業協同組合中央会副会長
理事	大坪 研一	新潟大学教授
理事	小田 敏三	新潟日報社代表取締役社長
理事	門脇 基二	新潟大学教授・副学長
理事	齋藤 吉平	新潟県酒造組合会長
理事	佐藤 功	佐藤食品工業(株)取締役会長
理事	高橋 秀松	新潟商工会議所副会頭
理事	中山 輝也	(株)キタック代表取締役社長
理事	山我 森實	亀田郷土地改良区理事長

## ● 顕彰(賞)の事業理念

「食の新潟」を世界の食の情報発信の拠点とし、食の質と量を高め、事業活動を通して食文化を創造的に発展させ、人類の福祉と健康、平和に多大な貢献をもたらした業績を顕彰し、永続可能な社会の確立に寄与することを事業理念としています。

## ● 財団の組織理念

新潟県は日本有数の食の生産地であり、また新潟市は極めて高い水準の食料自給率を誇る田園政令市です。

「食の新潟」は、佐野藤三郎氏に代表される多くの先達の志と実践によって形成されましたが本財団は、先人の志を継承し、「食の新潟」をさらに世界に発信し国際賞の成果を高めるため運営活動を行います。

## 評議員

氏名	所属・役職
安齋 隆	セブン銀行代表取締役会長
唐木 英明	(公財)食の安全・安心財団理事長
北原 保雄	新潟産業大学学長
小泉 武夫	東京農業大学名誉教授
坂本 元子	和洋女子大学評議員
高橋 姿	新潟大学学長
寺田 弘	新潟薬科大学学長
辻井 博	京都大学名誉教授
並木 富士雄	第四銀行取締役頭取
服部 幸應	(学)服部学園理事長
平山 征夫	新潟国際情報大学学長
山口 寛治	奥野総合法律事務所特別顧問
山本 正治	新潟医療福祉大学学長

## 監事

氏名	所属・役職
五十嵐 祐司	東邦産業(株)代表取締役社長
柴山 圭一	第四銀行営業統括部部长
野崎 正博	一正蒲鉾(株)代表取締役社長

## 相談役

氏名	所属・役職
武田 修三郎	日本産学フォーラムファウンディング ディレクター
栗山 清	(株)栗山米菓 相談役

In Memory of Sano Touzaburo

Niigata International Food Award

# スペシャル サンクス 〈順不同〉

## 特別会員

亀田製菓(株) (株)ブルボン 亀田郷土地改良区 新潟県農業協同組合中央会  
学校法人 新潟総合学園 第四銀行 一正蒲鉾(株) 佐藤食品工業(株)  
(株)栗山米菓 (株)新潟日報社 三幸製菓(株) (株)新宣 新潟市農業協同組合  
(株)エイケイ 三菱商事(株)新潟支店 NST (株)新潟クボタ  
(株)電通東日本 新潟支社 亀田商工会議所 にいがた22の会  
(株)日本食糧新聞社

## 正会員

(株)第一印刷所 新潟県信用組合 (株)本間組 ホテル日航新潟  
石本酒造(株) (株)ミカサ 神山物産(株) (株)山忠  
丸七商事(株) 大東産業(株) 日本精機(株)  
藤屋段ボール(株) 新潟工科大学産学交流会 (株)タケショー  
(株)新潟博報堂 BSN新潟放送 新潟陸運(株) 東邦産業(株)  
医療法人愛仁会 亀田第一病院 (株)新潟食品運輸 山崎醸造(株)  
月島食品工業(株) 松田産業(株) 麒麟山酒造(株) (株)鳥梅  
(株)フジテレビジョン 日本製粉(株)関東支店  
日本甜菜製糖(株) (株)山由製作所 新潟万代島総合企画(株)  
(株)キタック 鍋林(株) レンゴー(株) 北越工業(株)  
丸榮製粉(株) (株)鈴木コーヒー TeNYテレビ新潟  
(株)栗田工務店 三和薬品(株) (株)藤井商店 セツカートン(株)新潟工場  
ハセガワ化成工業(株) (株)加島屋 (株)日本フードリンク (株)アド・メディック

## 個人会員

藤島 安之

大越 斎

和田 充彦

河内 直史

### 食の新潟応援団(賛助会)募集中！

食を通じて飢餓や貧困などに苦しむ世界の現状に目を向けると、日本にいる私たちにも食の危機が及びつつあり、世界の人々の命が一つにつながっていることがわかります。

食と私たちの命を守る本財団の事業に賛同し応援して下さる皆様を募集しています。

詳しくはホームページをご覧ください。アドレス <http://www.niigata-award.jp/jp/join/>